長崎大学　教育開発推進機構紀要　第 13 号　2023 年 3 月

入学時の汎用的技能・態度・志向性についての自己評価
－2020 年度～2022 年度入学時意識調査の結果の入試区分間比較－

吉村　宰
長崎大学アドミッションセンター

Comparison of Students' Basic-General Skills, Attitude between the Types of the Entrance Examination
- the results of the 2020 - 2022 enrollment attitude surveys -

Osamu Yoshimura
Admission Center, Nagasaki University

Abstract

To investigate differences of the characteristics of students' basic general skills and attitude, the results of enrollment surveys, which were administrated in 2020 - 2022, were compared between four types of the entrance examination. The survey in 2020 consisted of nine questions; one question was added to the survey in 2021 and one more question was added to the survey in 2022. In this study, we focused on one of the questions that included 23 items which asked about strengths and weakness, for example "Are you strong at using ICT equipment?" and compared the types of the entrance examination. The MANOVA result showed that the four types were not from the same population, and response profiles to the items of special selection students differed from general selection students. From additional analysis, it was found that the response rates to the option "I'm strong at" of special selection students were higher than general selection students in almost all of the items. From the results, we could say that basic general skills and attitude of special selection students are better than general students. Further research about the relationship between academic achievement is needed.

Key Words : enrollment survey, basic general skills, attitudes, special selection, profiles of skills and attitudes

1. はじめに

1.1 長崎大学全学カリキュラム・ポリシー

省令によりディプロマ，カリキュラム，アドミッションの 3 つのポリシーを一体的に策定し 2017 年 4 月 1 日付で公表することが義務付けられた。長崎大学では 2016 年度に 3 つのポリシーの一体的策定に取り組んだ。

ディプロマ・ポリシーのもと策定された全学カリキュラム・ポリシーは次の通りである。

（前略）「大学入学時までに培われてきた総合的な学力を前提に」，教養基礎科目，モジュール科目，自由選択科目，また留学生にあっては留学生用科目を履修することで，社会に貢献できる市民として求められる多様な基礎的知識を学習し，自主的に考え発信する能力，論理的・批判的に物事を考える能力，日本語および英語によるコミュニケーションを行う能力，数量的スキル，情報リテラシーなどのいわゆる汎用的技能，ならびに継続的に学び自らを高め変革しよ

うとする態度，他者と協調・協働して問題解決にあたる態度，自らに課せられた責任を全うする態度，グローバールかつ地域の視点から多様性を理解する態度・志向性を身につけます。（中略）。

専門教育では，教養教育で培われた力をさらに伸ばすとともに，専門的な知識・技能，高い倫理観，ならびにそれぞれの分野・領域に特有の汎用的技能，態度・志向性を身につけます。（後略）。（下線は著者）

本学の学士課程教育はこのカリキュラム・ポリシーに基づき行われ PDCA サイクルを回すことによって絶えず改善される（いわゆるカリキュラム・マネジメントである）が，その際にはカリキュラムの評価が必要となる。

カリキュラムの評価には学生が教育を通じて何ができるようになったかを知る直接評価と，何ができるようになったと学生が思っているかを知る間接評価がある。

本稿は，入学時意識調査における新入生の汎用的技能・態度・志向性に関する質問の結果を分析しその特徴を明らかにすることで，カリキュラム・マネジメントにおける間接評価に資することを目的とするものである。

1.2 入学時意識調査[注 1)]

長崎大学では，2008 年度から現在に至るまで「大学広報活動に関するアンケート（2008-2013）」[1) 2)]，「大学生活に関する入学時調査（2014-2016）」，「入学時意識調査（2017-）」と目的やテーマを変えながら入学者を対象とした調査を続けている。

2022 年現在も若干の加筆修正はあるが 2017 年度版とほぼ同一の調査票を用いて調査を継続している。なお，2020 年度以降の調査ではコロナ禍の影響や入試の変更について尋ねるなど時宜に応じた問いも若干加えている。

各年度の回収率は 2017 年度から順に，98.7%，98.3%，99.6%，99.6%，99.7%，99.9%とほぼ全数回収できている。入学手続き時に提出する書類の 1 つとしているからである。

2017 年度以降の「入学時意識調査」では，次の 9 つの大問について尋ねている。

- 大学進学動機
- 長崎大学についての情報収集手段
- 長崎大学が第一志望だったか
- 希望する学部に入学できたか
- 長崎大学受験決定時期
- 長崎大学受験理由
- オープンキャンパスへの参加」
- 学外説明会への参加
- 得意なこと苦手なこと

このうち「得意なこと苦手なこと」は，カリキュラム・ポリシーで述べられている学生が身につけ高めていく技能や態度の，入学時の状態を調べるために 2017 年度に導入した問いである。具体的には以下の 23 項目である。

1. コンピュータなどの情報機器を活用する。
2. グラフや表，データから情報を読み取る。
3. 問題の解決に必要な情報を集めて整理する。
4. 計画を立てる。
5. やるべきことが複数ある際，効率的に時間を配分する。
6. 自分の意見の根拠を考える。
7. 物事の原理・原則について考える。
8. 人とのやり取りの際に，相手の意見や主張の根拠が何なのかを考える。
9. ネット，テレビ，新聞などのメディアの情報の信ぴょう性について考える。
10. 自らの考えを表現する。
11. ある事柄について他者と意見を交換する。
12. 自ら進んで物事に取り組む。
13. 必要に応じて自発的に学習する。
14. 多少の困難があってもやるべきことをやり遂げる。
15. 自分の長所・短所を考える。
16. 困難なことに挑戦する。
17. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）。
18. 学校での勉強以外に興味のあることを自分で勉強する。
19. 他の人と協力して物事を行う。
20. 自分と異なる考えや文化・習慣を受け入れる。
21. グループのリーダーとして物事に取り組む。

22. 日本以外の国のことについて考える。
23. 自分の住んでいる地域のことについて考える。

それぞれの項目への回答選択枝は「得意，どちらかといえば得意, どちらかといえば苦手, 苦手, 経験がない」である。「できるかどうか」を尋ねるとほぼ全ての項目で「できる」と回答する傾向があるので「得意かどうか」で尋ねている。

この問いは入学者選抜方法改善のための情報を得ることを目的として設けられているが，カリキュラム・マネジメントにおける評価の端緒として利用できるものとも考える。

1.3 基本的・汎用的能力

先に述べたようにアドミッション・ポリシーは，「学士力」を養う教育を受けるに必要な最低限の素養を示すものである。そうした入学者に求められる素養, すなわち大学入学までに培われた能力, 技能は，キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」[3] とよく似ている（キャリアプランニング能力は除く）。

基礎的・汎用的能力とは，キャリア教育の文脈で「社会的・職業的自立，学校から社会・職業への円滑な意向に必要な要素」の一つとしてあげられるもので，「『仕事に就くこと』に焦点を当て，実際の行動として表れるという観点から,『人間関係形成・社会形成能力』『自己理解・自己管理能力』『課題対応能力』『キャリアプランニング能力』の 4 つの能力に整理されるものであり，それぞれ具体的には次のような力であるとされている。

① 人間関係形成・社会形成能力：多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の置かれている状況を受け止め，役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し，今後の社会を積極的に形成することができる能力,
② 自己理解・自己管理能力：自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について，社会との相互関係を保ちつつ，今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に，自らの思考や感情を律し，かつ，今後の成長のために進んで学ぼうとする力,
③ 課題対応能力：仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画をたててその課題を処理し, 解決することができる力,
④ キャリアプランニング能力:「働くこと」の意義を理解し，自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて，「働くこと」を位置づけ，多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら，自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

吉村[4] は入学時意識調査の「得意なこと苦手なこと」の 23 項目を上述の基礎的・汎用的能力の観点から以下のように整理し，

- 人間関係形成・社会形成能力：
  8，10，11，19，20，21，22，23
- 自己理解・自己管理能力：
  9，12，13，14，15，16，17，18
- 課題対応能力：
  1，2，3，4，5，6，7

各項目への「得意である」の選択率を一般選抜前期の入学者と大学入学共通テストを課す特別選抜（AO 入試・総合型選抜，推薦入試・学校推薦型選抜）の間で比較した。

その結果,『新入生全般に，情報活用をあまり得意としない，他者との協働やものごとをやり遂げることを得意とする傾向があることがわかった。また一般選抜前期の入学者と大学入学共通テストを課す特別選抜の入学者の項目への回答を比較したところ，すべての項目で課す特別選抜の方が一般選抜前期の入学者より「得意」を選択する割合が高く，特に「自己理解・自己管理能力」と「人間関係形成・社会形成能力」の面で自信を持つという特徴が示された。』[4]

本稿では，吉村[4] では取り上げなかった項目を含む全項目で「得意である」の選択率の各入試区分による比較を行いそれぞれの入学者の特徴を把

握する。

2. 分析

2.1 データ

対象は一般選抜前期，一般選抜，後期，AO 入試・総合型選抜，推薦入試・学校推薦型選抜による入学者である。社会人，帰国子女，留学生は除いた。

2020 年度，2021 年度，2022 年度の入学時意識調査「問 9 : 得意なこと苦手なこと」への回答を，「得意」＝4,「どちらかと言えば得意」＝3,「どちらかと言えば苦手」＝2,「苦手」＝1,「経験ない」および無回答＝0 と数量化し分析データとした。

各年度調査の回収数（回収率）はそれぞれ 1576（99.6%）, 1571（99.7%）, 1578（99.9%）であるが，全ての項目が無回答の 21 件は分析から除外した。（項目無回答についてはペアワイズで処理をした。）。

分析対象としたデータ件数は年度順にそれぞれ 1576 件，1564 件，1563 件である。

2.2 多変量分散分析：4 群は異なる集団なのか

特別選抜には大学入試センター試験あるいは大学入学共通テストを課さない AO 入試 I・総合型選抜および推薦入試 I・学校推薦型選抜 I と課さない AO 入試 II・総合型選抜 II および推薦入試 II・学校推薦型入試 II があるが，これらを課さない特別選抜（課さない特別）, 課す特別選抜（課す特別）とまとめた。表 1 にこの区分に分けた際の募集人員を示す。

表 1 各年度の募集人員

	2020	2021	2022
前期	1,030	1,038	1,039
後期	239	234	204
課さない特別	185	83	87
課す特別	105	204	229
計	1,559	1,559	1,559

その上で, それぞれの年度で 4 つの入試区分（一般選抜前期，一般選抜後期，課さない特別選抜，課す特別選抜）を独立変数，23 項目への回答（数量）を目的変数とし多変量分散分析を行った（α＝.01）。[注 2)]

その結果，すべての年度で 4 群が同じ母集団からのサンプルであるという仮説が棄却された（Wilks の Λ を用いた近似 F 検定／2020 年度, $\Lambda_69, 4631.4 = 0.845, F = 3.90, p < .001$: 2021 年度, $\Lambda_69, 4595.6 = 0.872, F = 3.13, p < .001$: 2022 年度, $\Lambda_69, 4592.6 = 0.846, F = 3.84, p < .001$）。

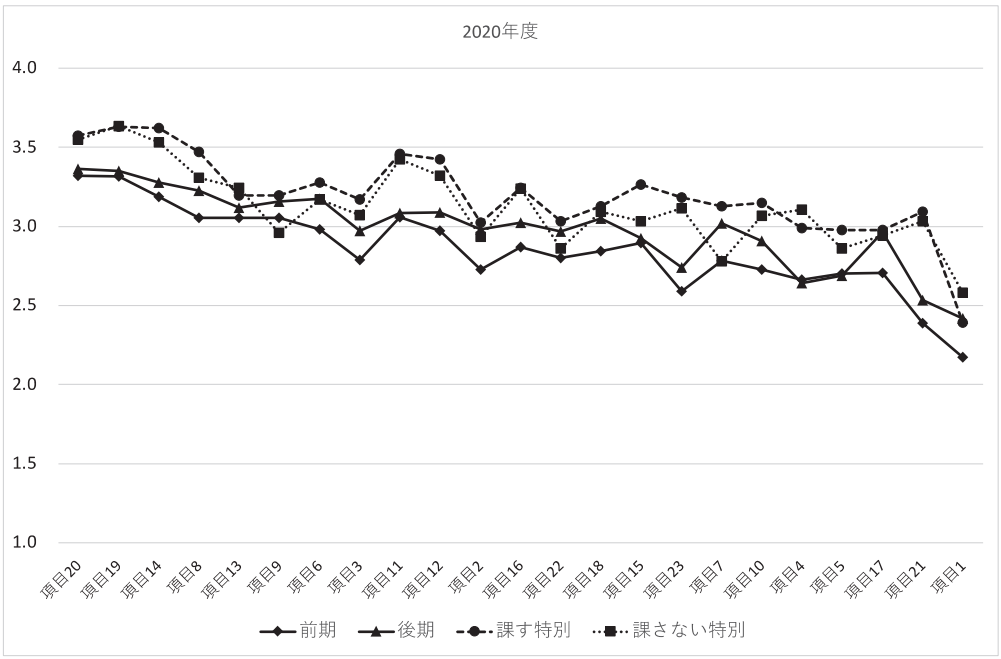

図 1a　2020 年度調査回答プロファイル

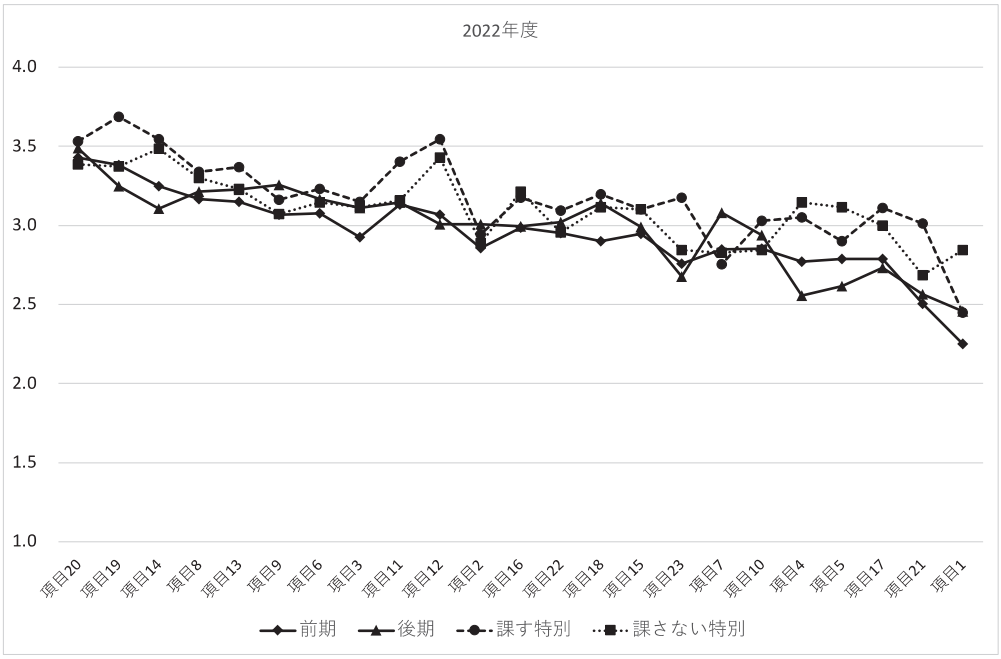

図 1c　2022 年度調査回答プロファイル

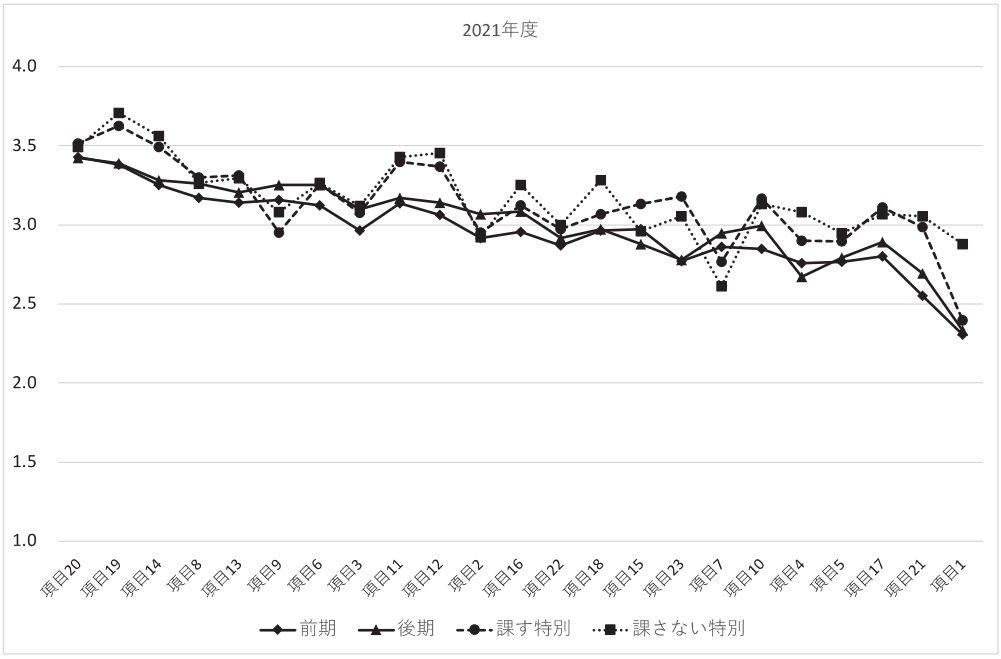

図 1b　2021 年度調査回答プロファイル

各項目への反応プロファイルが同様のパターンを持たないことからも（Wilks の Λ を用いた近似 F 検定／2020 年度，Λ_66, 4632.6 = 0.891, F = 2.76, p＜.001 : 2021 年度，Λ_66, 4596.8 = 0.886, F = 2.87, p＜.001 : 2022 年度，Λ_66, 4593.8 = 0.864, F = 3.50, p＜.001）, 4 つの入試区分の入学者はそれぞれ異なる特徴をもつといえる。

図 1a，図 1b，図 1c に各年度の 23 項目への回答平均値のプロファイルを折れ線グラフで示した。4 本の線が平行でなく全体的に波線（特別選抜）の方が上にあることが見て取れる。なお，図中の項目は 2022 年度調査の「得意である」の全入学者の選択率が多い順に並べ替えている。項目番号順となっていないのはそのためである。

2.3 分散分析：各項目の回答の差異

多変量分散分析の結果を受け，続いて項目ごとに分散分析を行った（$\alpha=.01$）。4 つの群で平均値が等しいという帰無仮説が 3 年度とも棄却された項目を表2〜11 に示す(表中 SE は標準誤差である)。

なお帰無仮説が棄却された項目についてはどの群間に差が見られたかを Tukey の HSD による多重検定で確認した（$\alpha=.05$，群間差が見られたところに〇を付した)。

3. 結果と解釈

多変量分散分析の結果は入学者の回答値が 4 つの入試区分で等しいという仮説を棄却するものであった。これは，入試区分それぞれで異なる特徴をもつ学生が入学していることを示唆するものである。

この特徴について調べると，表 2〜11（別掲）で示した項目で、特別選抜の方が一般選抜より平均値が高いことが分かった。これらの項目を基礎的・汎用的能力に分類すると次のようになる。

〇 人間関係形成・社会形成能力
- ある事柄について他者と意見を交換する。
- 他の人と協力して物事を行う。
- グループのリーダーとして物事に取り組む。
- 自分の住んでいる地域のことについて考える。

〇 自己理解・自己管理能力
- 自ら進んで物事に取り組む
- 多少の困難があってもやるべきことをやり遂げる。
- 困難なことに挑戦する。

〇 課題対応能力
- コンピュータなどの情報機器を活用する。
- 問題の解決に必要な情報を集めて整理する。
- 計画を立てる。

特別選抜の学生の方が，3 つの能力分野のどれかに偏ることなくおおむね主体性，積極性，自律性，協調性に優れているように見える。このことは，3 年度を通じて観察されているので少なくとも現在の入試方法のもとではある程度一般化できるものと考えられる。

現在，多様な入試区分を設け多様な学生[注 3)]を入学させることが政策レベルで求められているが，この結果を見る限りその目的はある程度達成できていると言えるだろう。

さて回答のプロファイルに目を移すと，どの年度もほぼ似たような形状をしている。しかし 2022 年度と 2021 年度は，2020 年度に比べ特別選抜と一般選抜との差が小さくなっている。この理由として，表 1 のように，2020 年度から 2021 年度にかけて課さない特別選抜の募集人員が大幅に減り，課す特別選抜が増えたことがあげられる。さらに具体的にいうとほとんどの募集区分で課さない推薦入試を課す学校推薦型選抜に振り替えられたのである。このようなことが行われた背景には高大接続システム改革[5)]がある。

高大接続システム改革の流れの中で 2021 年度の特別選抜はそれ以前の特別選抜に比べ「学力」重視のものとなった。[6)]

具体的には，大学入学者選抜実施要項（文部科学省）の中で，従来の AO 入試は総合型選抜と名称を変え次の改善が求められた。

> 大学教育を受けるために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するため、実施要項上の「知識・技能の修得状況に過度に重点をおいた選抜とせず」との記載を削除し、調査書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法等(※)又は「大学入学共通テスト」のうち、少なくともいずれか一つの 活用を必須化する。（下線は筆者によるもの）
>
> ※例えば、自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法(小論文等)、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など

推薦入試も同様で，学校推薦型選抜と名称を変え同じく次の改善が求められた。

> 大学教育を受けるために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を適切に評価する

ため、実施要項上の「原則として学力検査を免除し」との記載を削除し、調査書・推薦書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法等（※）又は「大学入学共通テスト」のうち、少なくともいずれか一つの活用を必須化する。（下線は筆者によるもの）

※例えば、自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法（小論文等）、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など

この大幅な変更をともなう通知を踏まえ，長崎大学では高校普通科（理数科等を含む）出身の特別選抜受験生に対し原則として大学入学共通テストを課すことを入学者選抜の基本方針とした。

この基本方針にもとづく入試方法の変更による特別選抜受験者層の変化は小さいものではなく，出願してくる高校も様変わりした。大学入学共通テストが課されると受験できなくなるとの意見も高校ヒアリングで得られている。[7)]

2021 年度，2022 年度の回答プロファイルの変化には，入試の変更による受験者層の変化が関係しているとほぼ間違いなく言えるだろう。

ところで，2021 年度以前の特別選抜（特別入試）の入学者は大学入試センター試験を受験していないという点で，一般選抜（一般入試）の入学者と大きく異なっており，これが一般選抜と特別選抜の回答が異なる要因の一つであったと思われる。だが，多少小さくなったものの，2021，2022 年度も依然特別選抜の入学者と一般選抜の入学者とでは回答プロファイルが異なる。

さらに，大学入学共通テストを受験しなければならなくかつその多くが高校普通科出身という点において，2021，2022 年度の課す特別の選抜の入学者は一般選抜の入学者と類似している。それでもなお表 2〜11 に示した項目で回答の平均値が一般選抜より高い。やはり一般選抜と特別選抜とでは異なるタイプの受験生が入学していると言えよう。

異なるタイプとは何か。結局のところ，高等学校の学校推薦を受けることができるような生徒であるかどうかというところにつきると思われる。学校推薦を受けることができる生徒は上であげた諸能力に長けているのであろう。内容を見るとその生徒像が容易に浮かぶ。確かに学校推薦にふさわしい生徒と言える。

4. 今後の課題

本稿では，2020 年度，2021 年素，2022 年度の入学時意識調査の設問 9「得意なこと・苦手なこと」（基礎的・汎用的能力に関する質問）の回答を入試区分間で比較することで，一特別選抜の入学者が一般選抜の入学者に比べ概して主体的，積極的であり自律性，協調性にも優れる特徴を持つことを示した。そしてその特徴はつまるところ学校推薦を受けることができる生徒の特徴であるという結論に達した。

ただし，本稿で示された特徴はあくまでも入学者本人が思っていること，いわば自信であり，客観性に欠ける。しかし，得意であると自信を持っている行動は実際の場面でも表れやすいと考えられる。

自ら進んで物事に取り組んだり，リーダーシップをとったり，他の人と協調しながら困難なことをやり遂げる，そのような特徴を持つ学生を適正に配置することでグループワークを捗らせるなど入学後の学修場面の中で活かせるかもしれない。必ずしも入試区分で分ける必要はないが，入学時調査で分かる学生の特徴を活かすことを考えてもよいだろう。

本稿では入学時意識調査の結果を入試区分間で比較するにとどまったが，分析の結果明らかとなった特徴と入学後の学業成績との関係も興味深いところである。今後の課題としたい。

注

注 1）このセクションの大部分は吉村 [4)] からの引用である。

注 2）帰無仮説は「23 項目全体への反応が 4 群で同じ」である。1 人が 23 項目に回答しているため変数間に相関がみられると想定することが妥当であり，まずは 4 群が異なる集団といえるかどうかを確認することが必要である。例えば項目ごとに独立に危険率 α=.05 で分散分析を 23 回行うと第 1 種の誤りを少

なくとも 1 回犯す確率が 0.69 となる。つまり 4 つの群が同じ母集団からのサンプルあっても有意差が観察される項目がかなりの確率で生じる。項目ごとに分散分析を行う前に多変量分散分析を行うのはこのような理由による。

注 3)「多様な学生」が指すのはもっと広く，例えば学び直しの学生や特別な支援や配慮が必要な学生などを含む。

参考文献

1) 吉村宰・木村拓也　(2010)：新入生を対象とした入試広報活動に関する調査，大学入試研究ジャーナ ル，20，　209-216.

2) 吉村宰 (2013)：新入生の受験校決定理由の特徴と入学時点での「気持ち」および学業成績との関連，大学入試研究ジャーナル，23，63-70.

3) 中央教育審議会 (2011)：今後の学校におけるキャリア教育･職業教育の在り方について(答申)，2011 年 1 月 31 日.

4) 吉村宰 (2023)：入学時意識調査にみられる基礎的・汎用的能力の特徴について ―2017 年度～2022 年度入学者の入試区分による比較― ，大学入試研究ジャーナル，33 (印刷中).

5) 高大接続システム改革会議「最終報告」, 2016 年 3 月 31 日，高大接続システム改革会議.

6) 文部科学省 (2018)：平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について (通知)，30 文科高第 370 号，2018 年 10 月 22 日.

7) 大学入学者選抜における主体性等の評価 (2022)，国立六大学コンソーシアム教育連携機構入試専門部会「大学関連系を見据えた選抜方法の開発と先導的入試の導入」(最終報告書).

表 2　コンピュータなどの情報機器を活用する。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.17	0.03	○		○
後期	2.42	0.06	—		
課す特別	2.39	0.10	—	—	
課さない特別	2.58	0.07	—	—	—

F(3/1572) = 12.76, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.31	0.03			○
後期	2.33	0.06	—		○
課す特別	2.40	0.07	—	—	○
課さない特別	2.88	0.11	—	—	—

F(3/1560) = 9.11, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.25	0.03	○	○	○
後期	2.46	0.07	—		○
課す特別	2.45	0.07	—	—	○
課さない特別	2.84	0.11	—	—	—

F(3/1559) = 12.23, p<.01

表 3　問題の解決に必要な情報を集めて整理する。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.79	0.02	○	○	○
後期	2.97	0.05	—		
課す特別	3.17	0.08	—	—	
課さない特別	3.07	0.06	—	—	—

F(3/1572) = 13.70, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.96	0.02	○		
後期	3.10	0.05	—		
課す特別	3.07	0.05	—	—	
課さない特別	3.12	0.08	—	—	—

F(3/1560) = 4.00, p<.01 (0.008)

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.93	0.02	○	○	
後期	3.11	0.05	—		
課す特別	3.15	0.05	—	—	
課さない特別	3.11	0.09	—	—	—

F(3/1559) = 7.95, p<.01

表 4　計画を立てる。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.66	0.03		○	○
後期	2.64	0.06	—	○	○
課す特別	2.99	0.10	—	—	
課さない特別	3.10	0.07	—	—	—

F(3/1572) = 12.60, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.76	0.03			○
後期	2.67	0.06	—		○
課す特別	2.90	0.07	—	—	
課さない特別	3.08	0.10	—	—	—

F(3/1560) = 4.98, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.77	0.03	○	○	○
後期	2.55	0.07	—	○	○
課す特別	3.05	0.07	—	—	
課さない特別	3.14	0.11	—	—	—

F(3/1559) = 13.24, p<.01

表 5　ある事柄について他者と意見を交換する。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.06	0.02		○	○
後期	3.08	0.05	—	○	○
課す特別	3.46	0.09	—	—	
課さない特別	3.43	0.06	—	—	—

F(3/1572) = 16.05, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.13	0.02		○	○
後期	3.17	0.05	—	○	
課す特別	3.40	0.06	—	—	
課さない特別	3.43	0.09	—	—	—

F(3/1560) = 9.07, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.13	0.02		○	
後期	3.15	0.06	—	○	
課す特別	3.40	0.06	—	—	
課さない特別	3.16	0.09	—	—	—

F(3/1559) = 6.24, p<.01

表 6　自ら進んで物事に取り組む。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.97	0.02		○	○
後期	3.09	0.05	—	○	○
課す特別	3.43	0.08	—	—	
課さない特別	3.32	0.06	—	—	—

F(3/1572) = 17.96, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.06	0.02		○	○
後期	3.14	0.05	—	○	○
課す特別	3.37	0.06	—	—	
課さない特別	3.45	0.09	—	—	—

F(3/1560) = 13.35, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.07	0.02		○	○
後期	3.01	0.06	—	○	○
課す特別	3.55	0.06	—	—	
課さない特別	3.43	0.09	—	—	—

F(3/1559) = 26.35, p<.01

表 7　困難なことに挑戦する。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.87	0.02		○	○
後期	3.02	0.05	—		○
課す特別	3.24	0.09	—	—	
課さない特別	3.24	0.06	—	—	—

F(3/1572) = 15.78, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.96	0.02		○	○
後期	3.09	0.05	—		
課す特別	3.12	0.06	—	—	
課さない特別	3.25	0.09	—	—	—

F(3/1560) = 6.45, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.99	0.02		○	
後期	2.99	0.06	—		
課す特別	3.18	0.06	—	—	
課さない特別	3.21	0.09	—	—	—

F(3/1559) = 4.63, p<.01

表 8　多少の困難があってもやるべきことをやり遂げる。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.19	0.02		○	○
後期	3.28	0.05	—	○	○
課す特別	3.62	0.07	—	—	
課さない特別	3.53	0.05	—	—	—

F(3/1572) = 20.95, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.25	0.02		○	○
後期	3.28	0.05	—	○	○
課す特別	3.49	0.05	—	—	
課さない特別	3.56	0.08	—	—	—

F(3/1560) = 10.35, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.25	0.02	○	○	○
後期	3.10	0.05	—	○	○
課す特別	3.55	0.05	—	—	
課さない特別	3.49	0.08	—	—	—

F(3/1559) = 16.32, p<.01

表 9　他の人と協力して物事を行う。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.32	0.02		○	○
後期	3.35	0.05	—	○	○
課す特別	3.63	0.08	—	—	
課さない特別	3.64	0.05	—	—	—

F(3/1572) = 7.34, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.38	0.02		○	○
後期	3.39	0.05	—	○	○
課す特別	3.63	0.05	—	—	
課さない特別	3.71	0.08	—	—	—

F(3/1560) = 12.18, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	3.38	0.02		○	
後期	3.25	0.05	—	○	
課す特別	3.68	0.05	—	—	○
課さない特別	3.37	0.08	—	—	—

F(3/1559) = 13.39, p<.01

表 10　グループのリーダーとして物事に取り組む。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.39	0.03		○	○
後期	2.53	0.07	—	○	○
課す特別	3.09	0.11	—	—	
課さない特別	3.03	0.08	—	—	—

F(3/1572) = 30.83, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.55	0.03		○	○
後期	2.69	0.07	—	○	○
課す特別	2.98	0.07	—	—	
課さない特別	3.05	0.11	—	—	—

F(3/1560) = 16.00, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.50	0.03		○	
後期	2.57	0.07	—	○	
課す特別	3.01	0.07	—	—	
課さない特別	2.69	0.12	—	—	—

F(3/1559) = 13.98, p<.01

表 11　自分の住んでいる地域のことについて考える。

2020年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.59	0.03		○	○
後期	2.74	0.07	—	○	○
課す特別	3.18	0.11	—	—	
課さない特別	3.12	0.08	—	—	—

F(3/1572) = 19.73, p<.01

2021年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.77	0.03		○	
後期	2.78	0.07	—	○	
課す特別	3.18	0.07	—	—	
課さない特別	3.05	0.11	—	—	—

F(3/1560) = 10.65, p<.01

2022年度

	平均	SE	後期	課す特別	課さない特別
前期	2.76	0.03		○	
後期	2.68	0.07	—	○	
課す特別	3.18	0.07	—	—	
課さない特別	2.84	0.12	—	—	—

F(3/1559) = 10.02, p<.01